

講座

明治・大正の皇室に学ぶ

麗澤大学客員教授
モラロジー研究所教授

所功 講師

麗澤大学外国語学部准教授

橋本 富太郎 講師



平成の御代も三十年目を迎えました。来年五月には第百二十六代天皇のもとで、新しい元号が始まります。そのせいか、近現代の皇室に対する関心が高まっています。今年(平成三十年)は、明治改元(一八六八年)から満百五十年にあたります。明治維新の国是を定めた「五箇条の御誓文」は、近代日本の原点であります。

維新の中心に立たれ、全国民の精神的な支柱となられたのは、明治天皇にほかなりません。そのご遺徳は、次代の天正天皇から昭和天皇を経て今上陛下へと受け継がれてきま

した。とりわけ未曾有の敗戦・占領という国難には、昭和天皇が先頭に立って国民を励まされました。また今上陛下は、被災者や障害をもつ人々に心を寄せ続けるなど、国民と苦楽を共にしてこられました。

この講座では、こうした近現代の天皇や皇族たちが、伝統的な儀礼や祭祀、および国内外の文化振興などに果たされた役割を具体的にわかりやすく紹介します。

そこから私どもは何を学びうるかを、皆さんと一緒に考えたいと思います。

講座

激動の世界をどう読むか

麗澤大学特別教授
産経新聞ワシントン駐在客員特派員

古森 義久 講師



世界が激しく揺れ動いています。北朝鮮が核武装へと走る。長距離ミサイルを発射する。日本人拉致事件を解決しようとする。中国がわが尖閣諸島を奪おうとする。歴史問題での日本攻撃をなお続ける。韓国までが慰安婦問題でなお日本を糾弾する。同盟国のアメリカも国内での大変革を進める。トランプ政権が型破りな外交を展開する。北朝鮮を軍事攻撃するのか。それとも経済圧力や首脳会談で北に核を放棄させるのか。中国との軍事対決は戦争へと暴走するのか。

こんな難題の数々が日本にも脅

威とか危機として迫っています。日本を襲う激動の波をどう見ればいいのか。日本はどうすべきなのか。

この講座では、このような課題をわかりやすく説明し、日本にとっての意味を解説します。

講師は毎日新聞や産経新聞での国際報道をアメリカ、中国、イギリス、そしてベトナムなどで合計30年も続けてきました。いまもワシントンからの報道を続けています。その体験と知識をもとに、いまの日本を取り囲む国際情勢のうねりに立体的な光をあて、日本の歩むべき道を考えます。